

続きまして、基調講演②を始めます。

実践、介護ロボットの導入活用、9つのステップと題しまして、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所、情報未来イノベーション本部、先端技術戦略ユニットマネージャー、足立圭司様よりご講演いただきます。

それでは足立様よろしくお願いいたします。

はい、ありがとうございます。

改めまして、エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所の足立と申します。

本日は私の方から20分ほどお時間をいただきまして介護ロボットの導入の9つのステップというものについてご紹介したいと思えます。

9つのステップといひまして、9つありますので、これ少し話が長くなってしまいますので、20分に短縮版でお話したいと思えます。

特に今回は管理者層向けということがテーマになっておりますので、管理者の方の観点からお話をしたいというふうに思えます。本日のアジェンダでございますが、介護ロボットの導入の意義を少しお話させていただきました後に、介護ロボット導入の9ステップということでお話させていただきます。

この9ステップはここにありますように、準備期、導入前期、導入後期というふうに分かれておりますが、今回は管理者の立場からということなので、導入前期のところは少し簡単にして、準備期そして導入後期で、お話を深めていきたいというふうに思えます。

なお、この今日の私のこのお話はですね、介護ロボット導入の手引きということで昨年度埼玉県さんがまとめられました、この手引きに沿って、解説するような格好でお話させていただければと思えますので、もしお手元でご覧になれる方があればですね、ご覧になりながら、見ていただければな聞いていただければなというふうに思えます。

それでは介護ロボット導入の意義から入って参ります。

先ほどのパネルディスカッションでもございましたが、介護ロボットといひますと、まだまだまだですね、浸透しておりませんで、人の形をしたロボット想像される方が多いようです。

介護ロボットちょっとご紹介しておきます。

このように、国は介護ロボットを六つの分野に分けて考えており移乗介助、移動支援、見守りコミュニケーション、介護業務支援、入浴支援、排泄支援、こういった六つの重点分野と言われるところで、介護ロボットを整備しております。

なので、このようにですね、人の形をしてないものについても介護ロボットに含めて考えている。

さらには、介護現場で活用される介護ロボット以外のテクノロジーとして、最近活発に開発が進んでいるのが、自動運転車椅子であったりAIのケアプランであったりとか、そしてICT機器全般、こういったものも、介護で使われるテクノロジーとして近年盛んに開発が進められております。それでは介護ロボットの導入について、どのような効果を期待しているのかというところを整理していきたいと思います。

介護ロボットの導入の効果、その1でございますが、やはりこれが一番上の大上段の目的かと思えます。

介護、介護サービスの質の向上、或いは、利用者さんの自立支援でございます。

例えばホンダの歩行アシストを例にとりますと、こちらのように活用イメージはこんな格好ですね、施設の中でリハビリや歩行訓練等に使っていただく。

なので、このご覧の通り、導入の効果としては、歩行の安定性の向上ですとか、歩行速度の向上、こういった利用者さんの自立支援に向けた介護ロボットの使い方、こういったものが一つ、

導入の効果として挙げられるかと思えます。

一方、導入の効果その2としては、介護者の負担軽減ですね、職員の方の負担を軽減する、或いは業務を効率化していくという観点です。

介護ロボットの導入例として見守りセンサーですね。

こういったものをセンサーを導入することによって、手で利用者さんの部屋の様子がわかると、タブレットで部屋の様子がわかるので、無駄な訪室といいますか、例えば寝返りなんかでアラームが鳴っても、行かずに済む、といったことで精神的な負担の軽減や身体的な負担の軽減に繋がっていく。さらには、これは利用者さんの観点ですけども、その足音やドアを開ける音などで起こさなくて済むといったような効果も見受けられる。こういったことが、導入の効果として見込めるものとして考えられております。では、この介護ロボットの導入の効果でございますが、これを生んでいくのはどういった考え方で見えていくのがよろしいかということなんです、介護ロボットの導入の効果と、というのは、このような掛け算で表しております。

すなわち、介護ロボットの機能、ですね、介護ロボットの機能とオペレーションとあります。

こういった掛け算によって、介護ロボットの効果というのは初めて生まれてくるものだろうというふうに考えられております。

つまり、オペレーション、現場の実践ですね、こういったところがゼロであれば、介護ロボットどんなにいい介護ロボットであっても、効果はゼロですよという考え方なんです。

例を見ていきます。

見守りのロボットについての例を挙げますと、例えば介護ロボットの機能といいますのは、アラームを鳴らすですとか、居室内の動画を、画像を映し出すといった、これ機能ですね。

で、これだけの機能ですと、何の効果もきつと見ません。

ここの機能をうまく現場になじませていく。

つまりオペレーションに乗せていくという工夫があって、初めて導入が、導入の効果が生まれていきます。

つまりどんなことかと言いますと例えば本当に細かいことですね、ロボットをどのような利用者さんに使うのか或いは使わないのか、適用する利用者さんのルールを決めていくといったこと。

それから、例えばですね、タブレット使おうと思った時に電源が、充電がなされていないといったこともままあることです。

こういった充電の管理のルールを作っていく。

とか、或いはアラームの音が大きすぎてですね、他の利用者さん起こしちゃったというこういった事例もあります。

なので、音量は3にしましょうと。

こういった本当に細かいルールを一つ一つ積み上げてオペレーションに載せていく。

こういった、努力があって初めて効果が生まれていくというふうに考えております。

ですので今日はですね、この緑色の部分、オペレーションの部分について中心にお話をさせていただきたいというふうに考えておりま

す。

介護ロボット導入の9つのステップであります。先ほど申し上げました通りこの9つのステップはですね、埼玉県さんの昨年度の事業成果物であります、介護ロボット導入の手引きに詳しくご紹介しております。

本日は時間の関係で、準備期、そして導入後期のところに触れていきたいと思いますが、先ほどご案内がありました1月のですね、実務者層向けの研修会ではこちらの導入前期のところ、を中心にお話させていただきます。

したがって、今回のセミナーと、次回のセミナーを二つ受けていただきますと、この9つのステップが網羅的にお話を聞いていただける、というような仕組みになっておりますのでぜひ、1月のセミナーも合わせて受けていただきたいというふうに思います。

それでは中身に入って参ります。

準備期の2番目ですね、1番目は情報収集です。

先ほどのパネルディスカッションところで触れましたけども、メーカーさんに問い合わせるですとか、或いは展示会に行く。

或いは、施設に、モデル施設のところに見に行くなんてこともありました。

そういったことを、そういったいろんな情報収集の仕方がありますので、またご参考にいただければと思います。

そういった情報収集を経て、今度は2番目ですね、組織全体での合意形成についてお話をさせていただきます。

組織全体での合意形成、この導入の意義や目的を、皆さんで一気通貫で意識合わせをするというところでございます。

なぜこれを、このようなところが重要になってくるかということなんですけども、介護ロボットに期待する効果っていうのは、経営者層や管理者層、そして現場の職員の方々、いろいろ期待することの優先順位がバラバラな可能性があるということなんです。

それはもう働いてるところ、働いてる、普段からの目線が違うからということで、これは自然なことだと思うんですけども。

なぜ、介護ロボットを導入するのかということについて議論し、そしてそれを施設内で共有していくという、このきちっとこのプロセスを持つということが非常に重要です。

例えば、導入の目的、先ほど申し上げましたが、二つの観点から導入の目的を考えるのが、まずはよろしいかなと思います。

一つは、職員の負担軽減、もう一つは、介護サービスの質の向上といったところ、具体的にどんな目的かと言いますと、例えば、夜勤帯の職員の精神的な負担を軽減したい。

或いは、職員の腰痛を予防したい。

これが負担軽減の観点からの目的で、目的の例であります。

もしくは、介護ロボットの介護サービスの質の向上の観点から言いますと、利用者に接する時間を延長したいんだということ。

或いは、利用者さんの睡眠の質の向上、昼夜逆転の改善。

こういったことが、サービスの質の向上の観点として挙げられるかと思います。

施設それぞれの目的があっていいと思っています。

なので、これを見出すために皆さんで一度しっかりと話し合っていていただいて、そしてそれを決めたら、プロジェクトの一番最初の段階でしっかりと掲げておく。

で、何か迷った時に、この目的や意見に立ち戻るということが非常に重要です。

次に実施体制ですね、プロジェクトはどんな形でどんな体制で進めていくべきなのかということについて議論したいと思います。

実施体制の整備ですね、プロジェクトチームの結成、ここでプロジェクトという言葉ですけども、これは期限を決めて、限られたメンバーの中で業務とは切り離して行うという意味でプロジェクトという言葉を使っております。

で、プロジェクトメンバーの選定のポイントでございますが、まずプロジェクトリーダーとプロジェクトメンバーといらっしゃる。プロジェクトリーダーの選び方なんですが、一番大事なのはやっぱりリーダーシップです。

プロジェクト、いろんな困難があると思います。

でもその困難を乗り越えてチームメンバーそして施設全体をですね、ゴールまで導いていくという強いリーダーシップがある方が、非常に適しています。

この人が言うならやってみよう、みんなが思ってる、思うような、そういった信頼のある、現場のリーダーがプロジェクトリーダーとしてふさわしい方だなというふうに思っています。現状に問題意識を持って改善活動に前向きである方、或いは、先ほどもありましたけども、かなり人材育成という観点も往々にしてありますので、将来の経営を担ってほしいな、そういった期待をし、この人にはできるなといった観点からですね、メンバー選びをすることがいいかなというふうに思っています。

そしてプロジェクトメンバーについては、次のスライドで少し詳しく書いておりますのでご紹介したいと思います。

共通しますのは現状に強い問題意識を常に持ってですね、改善活動に前向きに活動できる方ということなんですが、どんな役割分担がプロジェクトメンバーの中であるかという、この例でございます。リーダーシップのところ、プロジェクトリーダーのところはリーダーシップ、先ほど申し上げた通りなんですが、その他の青い人たちが、プロジェクトメンバーですね。

例えば、調査担当ですね。介護ロボットってどんなものがあるんだろう。或いは、課題を深掘りして、この課題を解決したいねということとは合意できたんだけど、それに対してどんなロボットが、どんな機能を持ってるんだろうということを、調査するですとか、そういったことが必要になります。

なので、介護ロボットに対するアンテナが高い方、テクノロジーに対してといっても構いません。

そういったアンテナが高い方ということ方をですね、調査担当に据えるといったことも一つ工夫としてはあるんじゃないかというふうに思います。

或いは、運用ルールを決める方。仕組みづくりなんかが上手な方っていらっしゃいますよね。

運用ルールの策定やロボットの管理ですね。

先ほどはタブレットの充電のルールとかっていうこともお話ししました。

そういったものの

有効な使い道といいますか、有効なその運用ルールを決めていくような方を、ここに据えていくというのが必要です。

またそのルールもですね、マニュアル化していくっていうことが必要になってきます。

資料作成の上手い方、例えばそんな文字でいっぱい書かれたようなマニュアルではなくてですね、写真をいっぱい使って、マニュアル作成をしていくわけなんですけども、そういった資料の作成が上手な方。

それからまた、研修担当とありますけども、説明が上手な方ですね。介護ロボットの説明を皆さんに向けてしていく場面が出てきます。

説明が上手な方ってのは非常に有効です。最後に、これをご紹介します。

技術担当、ICTが得意な方。得意じゃなくてもいいです。

ロボットやICTに対して抵抗がない方ですね。

メーカーさんとのやりとり等も発生しますので、そういったところに抵抗がない方、そういったことが好きな方がいれば、ベストですけども、そういった方を必ず1人入れておくということも有効かというふうに思います。それでは、経営層とありますけど経営層からの支援とありますが、管理者層からの支援、どんなものが考えられるかというところがあります。

プロジェクトチームの活動が円滑に進むようにですね、例えば業務量を調整するというふうに書かれています。

これはやはり先ほどもあったように、プロジェクトチームといえども、普段の業務があります。

普段の業務の上で一定期間と言っても、このプロジェクトに関わる時間を捻出する必要があります。

場合によっては部署間の業務量を調整したり、業務の偏りなんかを調整したりする必要があります。

そういった管理者層はですね、俯瞰的に見ていただいて、誰か1人に業務の偏りが生じていないかといったところを常に見て、プロジェクトがうまく進むようにフォローしていただくということが必要なかと思います。

また、プロジェクトが進みだすとですね、皆さんも一生懸命になってしまって、さっきも言いましたけども、介護ロボットを導入すること自体が目的になってしまって、本来どういった目的で、介護ロボットを導入しようと思ったんだっけっていうところになかなか目が行かなくなるんですね。

目線が下がっていくといいますか。

そういった場面でいろんな悩みが生じることもまあります。

そういった時にですね、そもそもこの介護ロボットを導入しようとしたきっかけはこういうことでしたよね。

実現したいのはこういう介護ですよっていうことをですね、メンバーの目線を上げさせて、そもそも、こういうことだったよねというところにもう一度立ち戻らせてあげる。

そういった役割を、経営者層管理者層の方は担ってるんじゃないかなというふうに考えております。また人材育成の観点も、先ほど来から何度も出て参りますので、そういった観点からもいろんな問いを、答えをすぐに出してしまうわけではなくって、いろんな問いを投げかけていくといったような工夫も、現場のプロジェクト現場で実証していく中では、非常に重要な観点かなというふうに考えております。今日は時間の観点、時間の制約から導入の前期については割愛させていただきますが、ここにP14とあります通り、先ほどの手引きのP14に、詳しく書いてございますので、このあたりは見ていただければというふうに思います。

導入の後期でございます。

ここでは、7番目の試行的な導入というところについて触れていきたいと思っております。

試行的という言葉なんですけども、

施設全体で本格的な導入をする前にですね、試行的に、つまり限られた時間で例えば一週間ならこの一週間、限られたフロアユニット、限られた場面ですね。

限られた利用者や限られた職員の中で、試し使ってもらう、試し使ってみるということが非常に重要です。

で、お試し運用をしてみてその中から小さな成功事例ですとか、小さな失敗も幾つか出てくると思っております。

想定していなかったことがたくさん出てくると思うんですね。

そういったものを洗い出しておく、全面展開の前に洗い出しておくということが、全面的な展開のリスクを下げたりしますので、そういったことが非常に重要です。

なので、こういった小さな改善活動をコツコツと積み重ねていって、大きな改善活動に繋がっていくと、こういった考え方を持っていただくとよろしいかと思っております。

ここに書いてある例を一つだけご紹介しますと、例えば、この下の例を紹介いたしますね。

職員から装着が手間であるという声がやはり上がります。

こういったような、介護ロボット導入したけど、かえって手間だといったような声上がるんですね。

正しい装着方法がまだしっかりと浸透していなかったりとか、どうやらコツがあるようだということ、メーカーさんなんか協力いただいた勉強会なんかで教えていただくことがあります。

こういったことを、小さな成功事例として貯めておいて、それもノウハウを、共有しておくということが重要だということでもあります。

先ほどもありましたけども、この頃になりますと、現場からは逆風が増えて参ります。

すなわち、介護ロボットを導入したんだけど、一向に仕事が楽にならないと。

全然期待はずれだという声が聞こえてきます。

そういったこと、

そういった時に、このU字の法則というものの考え方を覚えていただければ、非常に助けになるのではないかなというふうに思っていますこのグラフをご覧ください。

縦軸にですね、効率とあります。

生産性とか、業務効率とかっていうふうに考えていただいて考えていただければと思います。

そして横軸は時間であります。

ここの黄色い点がですね、

今、介護ロボットを導入する前の業務効率。

今の効率ですね。

そしてこの赤い点が、介護ロボットを導入した暁に実現したい効率ですね。少し上がるわけですね。

当然業務効率を上げようと思って介護ロボットを導入しているわけですので、こういったところにプロットされるわけなんです、介

介護ロボットを導入して、次の日にその効果が出るということは絶対ありえません。

実際には介護ロボットを導入すると、一旦効率が下がって、そして5日ずっと頑張って使っていると、

効率が上がってくると、以前よりも少し効率が良くなったねということになります。

で、なぜこういうふうに効率が下がるのか、これはもう皆さんもおわकारの通り、試行錯誤が発生するからです。

介護ロボットを現場に導入していく時、オペレーションに乗せていく時に、いろんな試行錯誤があるからです。

この試行錯誤を乗り越えられずに、途中で諦めてしまうと、その介護ロボットはお蔵入りということになります。

介護ロボットの導入のプロジェクトに取り組む前にですね、この絵を覚えといていただければというふうに思っております。

これが最後のスライドでございますが、今日お話したことを1枚でまとめております。

介護ロボット導入の9つのステップ、介護まずは介護ロボット導入の効果の考え方でございますが、介護ロボットの導入の効果は、介護ロボットが持つ機能、とオペレーションの掛け算で生まれてきますよといったこと。

そして、介護ロボットの導入の効果というのは、一気通貫で施設全体で合意形成する必要があるということ。

具体的には職員の負担軽減を目指して介護ロボットを導入するのか、或いは介護サービスの質の向上を目指してみんなで導入しようというふうに決めて、ということが重要でございます。繰り返しになりますけども、注意としては、介護ロボットの導入自体が課題の解決策そのものにはなりませんよ、ということであります。そして個々のオペレーションの中身は、一つの例でございますが、この介護ロボットの導入手引きに納められているように、ある程度のこのステップを踏んでですね、

このステップを踏んで導入していくことをお勧めします。

このように、ステップを踏んである程度のプロジェクトで、きっちと有期のプロジェクトで進めていただくことによって上手く、ゆっくりとではございますが、上手くオペレーションに介護ロボットが馴染んでいって、効果が実感できるようになるんだろうなというふうに考えております。

私のお話は以上でございます。

ご清聴ありがとうございました。

足立様、ありがとうございました。

続きまして、すでに多くの施設で活用されている富士ソフト株式会社のPALROをご紹介します。

皆さん、こんにちは。コミュニケーションロボットのPALROです。

僕の説明を、瀬古さんお願いします。

はい、PARLOありがとう。

えへへ。

PARLOは卓上で使っていただく、全長40センチの小型のコミュニケーションロボットです。

口元に見えるカメラで100人以上の方の顔と名前を識別し、高齢者の方お一人お一人の名前を呼びかけながらお話しすることができます。

また、インターネットにも接続をしているので、今日は何の日といったうちくであったり、天気やニュースの情報を交えながら会話をすることができます。

また、歌や体操、落語にゲームといったレクリエーションのネタも豊富に持っていますので、よかったら僕と一緒に歌を歌いませんかなどと自分から持ち掛けていって、高齢者の方が自然と体を動かせるようなきっかけづくりをお手伝いさせていただいています。

最近では、このコロナ禍という状況の中で、受け付けに置いていただいて、PARLOの方から消毒のご案内や、マスク着用をお願いを注意喚起させていただくというような部分でも、お使いいただいております。

利用シーンといたしましては、お一人お二人といった少人数での会話のシチュエーションからデイサービス等、大規模な人数でのレクリエーションなど、多岐にわたる活用の方法をさせていただいております。

PARLOが高齢者の方のお相手をしている間、スタッフの方は、ナースコールが鳴ったとしても、そちらの方に駆けつけることができるので、入浴を待っていらっしゃる方であったり、送迎を待っていらっしゃる方、また、おやつまでのわずかな隙間時間、待ち時間がある方に等、お一人で過ごしていらっしゃるような高齢者の方に使っていただくことができます。

効果としましては、レクリエーションや声かけ業務、それから日常のお話し相手など、PALROが介護業務の一部を担うことができますので、スタッフの方の時間的負担、それから精神的負担の軽減というのが効果として挙げられています。

PALROは現在、全国1,300ヶ所以上の介護施設で使っていただいております。

スタッフの方の業務支援、それから高齢者の方のQOL向上を目的に、日々進化をしております。

ぜひ、お気軽にお問い合わせお願いいたします。

瀬古君、なかなかだったよ。がんばってね。

ありがとうございます。

富士ソフト株式会社のPALROのご紹介でした。

ではここからは質疑応答のお時間です。

皆様から寄せられたご質問に、パネリストの皆様にご回答いただきます。

ここからの進行は足立さん、よろしく願いいたします。

はい、ありがとうございます。

足立でございます。

この時間は、皆様から寄せられたご質問についてパネリストの皆様にご意見を伺いたいというふうに思います。

まず最初にですね、介護現場の職員の方、プロジェクトを進める中で不安や戸惑いの場面があったかと思えます。

どんな戸惑いや不安があったのか、そしてそれに対して、皆さんがどのようにこう対処してきたのか、どんなサポートして差し上げたのか、いったところを、ご経験の中からお話いただければなというふうに思います。

横山さん、どうですか。

はい。

そうですね。

不安や戸惑いがないことはないのかなっていう前提でやってきたんですけども、具体的になって言われると、なかなか難しいんですけど。

そうです。やっぱり丁寧に話を聞かっていうことですかね、で、職員の話も、話を丁寧に聞いて、で、いきなり大きい目標を達成するためにこうしようではなくて、簡単な目標というんですかね、ちっちゃい目標をまずやってみよう。

もし、そこにまず辿り着こうっていう、ところで、1個ずつやっていったっていうところが、意識してやったところですね。

なるほど。

いきなり高いところを目指さずに、それをちゃんと刻んで、ステップバイステップで上らせてあげるっていうことですね、非常に重要な観点かなと思います。

ありがとうございます。

酒本さんいかがですか。

はい。

導入にあたっての不安や戸惑いという

よりもですね、このプロジェクトをするにあたっての不安や戸惑いっていうのは、チームにありました。

例えば、導入した機器でこういった成果を上げられるんじゃないかって自分たちが思って導入したにもかかわらず、やってみた結果なんだかうまくいってないんじゃないかみたいなことがやっぱり出てきます。

そうだった時に、でもそれをやったけど、こういうことは逆にうまくいってるんじゃないっていうふうに、言ってあげられる、何かとまどって立ちどまった時に、投げかけてあげるっていうことができたら、次にそうだねって進めるっていう体制にはなっていたので、あとは素地としてもともICT関連の記録が入っていたりとか、移乗用リフトが入っていたりとかするので、そういったところから、アレルギー反応が最初にあまりなかったっていうのも、うちは幸せな施設だったのかなというふうに思っています。

なるほど。ありがとうございます。

先ほどのパネルディスカッションでもご意見いただいておりましたけども、何が成功なのかっていうのをきちっとご認定してあげる。

そして、モチベーションを管理するといいますか、不安を解消まではいかなくても、これは成功したんだよ、これはちょっと改善が必要だよっていったことをアドバイスしてあげるってということですね。

非常に重要だと思います。ありがとうございます。

江田さんどうですか。

はい、そうですねやっぱり、初めて、皆さんに使ってくださって形で出した時に、使ってみてのその感想を必ず私たちの施設の場合ですと今日のPARLOっていう形で、ちっちゃい紙にですね、誰が使ったのか、誰が参加されたのか、こんなことがよかったこんなことが良くなかったってことを必ず書いていただくようにしまして、それを毎週毎週ですね、ミーティングがありましたので、その場で、こういう1週間でこういう意見があがったんだじゃそれに対してはどう動いていこうかみたいところで、一つ一つ皆さんからの意見を実際に紙に書いていただいて、吸い上げてそれを一つ一つ回答していったっていう形をとっていますね。

そうすることで、やっぱりみんなが声を拾ってくれてるんだっていった気持ちを持ってもらって、介護ロボットを使っていくっていうことに協力をもらえたっていうことがあったかと思います。

そうですね。

プロジェクトを進めていく中でやっぱり逆風という言葉在先ほど私の講演の中でも伝えましたけども、なかなかこうまくいかない時、職員間の中でもいろんな意見が食い違う時とかあると思うんですね。

やっぱりロボットに対する抵抗感なんかもある方もいらっしゃると思います。

そういった方も含めて、その否定的な意見を、否定的にとらえずにですね建設的に前向きにとらえて、それを改善していくためにはじゃあどうすればいいかっていうことを、とにかく前向きに、とらえ直してプロジェクトを進めるっていうことが非常に重要なんだろうなというふうに思います。

ありがとうございます。

もう一つの質問参ります。

導入後の効果をどのように考えたらいいのか、算出したら良いのかということがあります。

例えば経済的な効果ということ、直接ですね、はじくのはちょっと難しいかなとも思います。

ただ、現場の中ではいろんなその見える化指標を使って、この成果というのを見てきましたね。

例えばどんな見える化の指標を使ったか。

そして、それは数字であらわせるものと表せないものとありましたけれども、二つの側面から、ご経験をお聞かせいただければというふうに思います。

江田さんどうですか。

そうですね、はい実際に数字でなかなか表すのは難しかったりはするんですけども、この取り組みを始めた際に、どうしても先ほども申し上げたんですが、長いレクリエーションをご利用者に提供するっていうことがなかなかできていなかったっていうのがちょっと私たちの中でありまして、それがすごく職員の中でも、精神的な負担にもなっていたのがありました。

で、最初はまだデータを取るためにも、そのPALROを毎日毎日使ってレクリエーションを行っていくことは実際ありまして、その中でやはりもともとレクリエーションが得意なもの苦手なものがいらっしやるんですけども、もっとこうしたらいいのになんていう意見がどんどん上がってきたんですね。

で、今ちょっと私は蓮田から離れてしまっているんですけども、この間声を聞きに行きましたら、PALROの使用頻度は、当初よりは少なくなっている。

ただし、レクリエーションの対する意識はもう職員本当に変わって、PALROを使わないでも自分自身で、レクリエーションを考えて、利用者さんにとって何がいいのかっていうのを考えるようになったっていう声を聞いていますので、その点ではすごくよかったんじゃないかなって、数字ではなかなか表せないですね。

そうですね。

レクレーションにかかる時間ですとか、例えば数字で無理やり一つの例として挙げるとすれば、レクレーションのレポートリーですとか、或いは回数や時間、集まって来ていただいた利用者さんの数ですとか、そういったことが見える化の指標としては考えられるんじゃないかなというふうに思います。

ありがとうございます。

酒本さんいかがですか。

はい。

私のところは見守りセンサーなので、まず数字で算出するデータとしては、巡視時間の短縮というのがありました。

最初は1の見守りに対して1分ぐらい短縮だって大したことないねみたいな話だったんですけど、ちゃんと計算していくとですね、1回の夜勤で60分近く短縮ができる。

それを時給換算するとすごいことだよって話になって、そのあたりから、これって私たち成功なんだっていうのが、効果としてチームには波及してきました。

そうこうしているうちに、ユニットケアですので、24時間シートの作成に当たって、就寝時間と起床時間、これを根拠に基づいて行えるようになってきたっていう、アセスメントツールとして使うようになってくるんですね。

ちゃんと覚醒をしてから起こすっていうことは、入居者の方に対してできるようになって、入居者の満足度にも上がってるんじゃないかっていうふうにスタッフは考えました。

あとは、看取り期ですね、看護スタッフと協働して、心拍と呼吸が取れるので、一定の数字になった時に必ず、医療スタッフにも連絡がいきますがご家族にも連絡がいて、最後の時間を過ごしていただくという

形をとりました。

導入から1年経っていますが、最後の時間を過ごせなかったご家族がないというところが、すごく効果の中の一つなんじゃないかなと思っています。

つまり、スタッフの経営側としての数字の部分、利用者満足度としての部分、家族の満足度としての部分ということで、最終的に終わってみて効果としてこれだけのことが得られたんだなっていうふうに、一年半経ってわかったかなというふうに思っています。

ありがとうございます。

横山さんいかがでしょうか。

はい。

そうですね。

その管理者としては、例えば、介護ロボットを導入することで、端的に言えば利用者がパンパン来てですね、収入が上がるとか、もしくは離職される職員が少なくなって、そこに伴うコストがダウンできる、とか、当然そういったこともあるのかなと思うんですがまさ、さっきお話あったようにその数字で出すっていうのはその部分に関してはかなり難しいかなと思います。

やはり導入を何でするのかっていう目的をきちっと、施設で共有するっていう、もしくは管理者がきちんと伝えるってことがすごく大事なかなあとと思います。

私が介護ロボットなんで導入したいかって考えたのは、職員何人か話した時に、やっぱり利用者に関わりたいなと。

その雑務ですとか、洗濯物たたくとか、そういったいろんな雑務があるんですが、やっぱり利用者さんともっと寄り添って、関わりたいんだ。

それを関わるためには、こういった形があるかっていう中の一つが、介護ロボットであるのかなって思います。

そういったことを、実践するというか、少しでもできるようになることで、多分利用者も楽しくというか、顔も明るくなるのかな。

それが結果的には、雪見野がよかったっていうところに繋がればですね、効果っていう意味ではあるのかなと思います。

職員が何を、自分の仕事を通して実現したいのかってことをやっぱり聞いて、実現できる場所をですね、作ってあげるってことが大事かなと思います。

なるほど。

ありがとうございます。

どんな見える化指標、見えるものも見えないものもあろうかと思いますが、その直接的な効果間接的な効果、そしてその指標によっては、短期的に出てくる効果ばかりではなくって、長期的に見て初めてじわっと感じられるものなんかもあると思うんですね。

ただ、そのゲームの現場のスタッフの方からすると、なかなかそういったものが見つけにくかったりとか、見えにくかったりしますのでそういったものを管理者として見だしてあげて、そしてそれを伝えてあげる。

ここが成功のポイントなんだよというところを伝えてあげるってことが非常に重要なんだなということを教えていただいたと思います。

ありがとうございます。

最後の質問としたいと思いますが、介護ロボットを導入することで、副次的な効果になろうかと思えますけども、その求職者に対して、人手不足等ですので、求職者に対してのアピールになり得るのかどうか。

ここは管理者としてのご感想といいますか、そういったところをお伺いしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

酒本さんどうぞ。

はい。

おそらくやはりあったほうが、アピールになると思います。それはなぜかといったら、利用することで、平均的に皆が安心介護ができるようになるっていうのも一つのことだと思いますし、現に私自身専門学校の先生に頼まれて、二施設ほど介護ロボットの話を受業でさせていただいたりもしています。

そういったところで、導入している施設と導入してない施設にはやっぱり、少し差があるというか、実習に行った子たちが、その施設に、介護ロボットがあるなしで、介護の、手間というか、精神的な介護ができるかできないかというのは若い子たちが特に、感じてもらうことができるんじゃないかなと思います。

ですので、新卒の子の採用ですとか、そういったことに向けてアピールしていくには十分な材料だと思っています。

ありがとうございます。

江田さんどうですか。

はい。そうですね。

やっぱり学生さんとか、やはり若い子たちは本当にロボットに対する抵抗は全然ないので、やっぱりこういったロボットを導入することで、こういった取り組みもされてるんですね、やっぱり皆さんが見学にされてきた方の実習に来られた方が言ったりします。

で、今実際、面会がね、なかなか直接はできなかつたりして、Webの面会をさせていただいてるんですけども、Webの面会の準備をしてる間ですね、PALROをちょっと横に置いてですね、実はアプリを使って好きなことをしゃべらすことができるんですね。

子供さんたちが来た時とかに、今アニメではやっている、全集中とかしゃべらすと、わあしゃべったみたいで喜んでもらえたり、とかで、そういったところでもご家族の方にだったりも、PRできるかなっていうのがあつたりします。

なるほど。

ありがとうございます。

横山さん、お願いします。

はい。

そうですね、私どもの施設では、こういった求人との面接があつた時に、こういうシルエット見守りセンサーを導入してますってことは、言ってはいません。

そうですね、今考えると何で言わなかったのかなという部分もあるんですが、ただやっぱり何をやるにしても何を入れるにしても、職員が働きやすい環境を、施設も考えてるんだよっていうメッセージに繋がればいいのかと思います。

で、それは100%満足させるものではないかもしれませんが、ただ介護ロボットを通じてですね、職員の方が働きやすい、もしくは負担の軽減を考えてくれる施設なんだよっていうメッセージに、なりうるんであれば、やるべきだったなと、今からですが、思ってます。はい。

はい。ありがとうございます。

お時間が来たようですので質問はこれで終了したいと思います。いろいろなディスカッションを経てですね、私が感じたことを少しお伝えさせていただければと思います。

介護ロボットの導入という一つのテーマでございますが、

このテーマを通して、改善活動に、こういった経験を持つことによって、改善活動にどんどんこう人が集中していけるようなところ、そういったものが介護ロボット一つの副次的効果、大きな副次的効果の一つではないかなというふうに思います。

そして介護ロボットにはいろんな期待が、今求められる期待がされております。

負担の軽減だけではなくて、そのデータを活用した科学的な介護であったり、先ほどもありましたけども、介護ロボットを使った先進的な職場ということで介護の魅力の発信、そして、今のまさにコロナですね、非対面非接触といったところから、コロナ対応でも使えるかもしれません。

こういったところから、どんどんこの介護ロボットというものがわが国の介護に、普及していくことが望まれるのかなというふうに関心を持って思っています。

はい。これで質疑応答の時間を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

足立様、そしてご登壇の皆様、どうもありがとうございました。

それではお時間となりました。

この後アンケートフォームをメールにてお送りさせていただきますので、どうぞよろしければご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、来年1月28日には、本セミナーの実務者層向けをオンラインにて開催いたしますので、ぜひご参加ください。

以上をもちまして、本日の介護ロボットで課題解決オンラインセミナー管理者層向け、終了とさせていただきます。

皆様ご参加いただきまして、誠にありがとうございました。